

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1

令和6年1月19日

協議会名：千歳市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北海道中央バス株式会社	・みどり台線 千歳駅～みどり台北2丁目	路線の収支率の改善を図るため、バス事業者と利便性・採算性・公共性のバランスを考慮しながら現路線のダイヤ等の検証を行うとともに、利用者数の増加を目標にバス事業者と協働しながらバスの利用促進に努めた。 昨年度に引き続き、路線バス利用促進イベントを開催したほか、市内イベントに環境に配慮した移動手段として、ハイブリットバス等を紹介するパネル展を開催するなど、利用促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 1. 4系統の収支率について 目標:45.0% 実績:41.1% 2. 利用人数について(市調査) ※1日あたりの利用者数 (1)桜木線 目標:冬402人、夏288人 実績:冬414人(R04.12月) 夏247人(R05.4月) (2)みどり台線 目標:冬285人、夏180人 実績:冬305人(R04.12月) 夏203人(R05.4月)	本システムについては、収支率の改善が今後の課題であり、各便の利用人数などを把握し、ダイヤの見直し及び運賃の引き上げを検討する必要があるが、利用人数は増加傾向にあることから、慎重に検討を進める。引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、さらなる利便性の向上に取り組むとともに利用促進につながるような情報発信に努めていく。
北海道中央バス株式会社	・桜木線① 千歳駅～千歳駅(循環) ・桜木線② 千歳駅～千歳駅(循環) ※ショートカット型 ・桜木線③ 千歳駅～桜木5丁目	路線の収支率の改善を図るため、バス事業者と利便性・採算性・公共性のバランスを考慮しながら現路線のダイヤ等の検証を行うとともに、利用者数の増加を目標にバス事業者と協働しながらバスの利用促進に努めた。 昨年度に引き続き、路線バス利用促進イベントを開催したほか、市内イベントに環境に配慮した移動手段として、ハイブリットバス等を紹介するパネル展を開催するなど、利用促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用人数について、冬季は目標を達成し、夏季は目標達成には至っていないが、増加傾向にある。利用者の増加を受け、収入については、増加しているが、依然として、収支率目標を下回っている。	本システムについては、収支率の改善が今後の課題であり、各便の利用人数などを把握し、ダイヤの見直し及び運賃の引き上げを検討する必要があるが、利用人数は増加傾向にあることから、慎重に検討を進める。引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、さらなる利便性の向上に取り組むとともに利用促進につながるような情報発信に努めていく。
東千歳バス運行協議会	東千歳デマンドバス	前回の事業評価時には、運行がないため、記載なし。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 1. 収支率について 目標:12.6% 実績:20.6% 2. 利用人数について 目標:499人/年 実績:494人/年 収支率は、目標を達成し、利用人数についても概ね目標を達成している。	本システムについては、デマンド型の運行形態をとっており、交通空白地における運行を行っており、収支率については、必然的に低くなっていくこともあり、市から補助金を出し、運行を支えている。運行を行っている地区の人口的に日常利用については、あまり多くはない系統であるが、地元住民にとっては欠かせない移動手段であることから、継続的に運行することができるよう、周知等を行い利用促進につながるよう努めていく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年1月19日

協議会名:	千歳市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>千歳市は支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖を源とする千歳川の清冽な流れと自然が育む豊かな大地に恵まれ、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接しており、面積は594.50km<sup>2</sup>で、人口は97,960人(R5.12.1時点)となっている。</p> <p>路線バスの利用者は自家用車の普及等により昭和40年代をピークに減少傾向にあり、また、まちづくりに関する各種市民アンケートでは、路線バスに対する満足度は低い結果となっている。</p> <p>路線バスの利便性を向上させ交通ネットワークを充実させることは、まちづくりにとって重要な要素の一つであることから、平成27年度に地域公共交通網形成計画、平成28年度に地域公共交通再編実施計画を策定し、全市的なバス路線の再編を実施した。</p> <p>また、令和3年度には地域公共交通計画を策定したところであり、本計画に基づき利用者の利便性向上のための運賃制度の導入や各施策の実施など、バス事業者の収支改善に取り組んでいる。</p> <p>しかしながら、路線バスの利便性を向上させることは、財政的負担を伴うことにつながり、バス事業者や市の財政支援で賄うことが極めて困難な状況にあることから、国の地域公共交通確保維持改善事業を活用し、路線バスを基幹とする持続可能な交通ネットワークの構築と充実を図るものである。</p>

# 千歳市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

千歳市は支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖を源とする千歳川の清冽な流れと自然が育む豊かな大地に恵まれ、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接しており、面積は594.50km<sup>2</sup>で、人口は97,678人(R4.12.1時点)となっている。

路線バスの利用者は自家用車の普及等により昭和40年代をピークに減少傾向にあり、また、まちづくりに関する各種市民アンケートでは、路線バスに対する満足度は低い結果となっている。

路線バスの利便性を向上させ交通ネットワークを充実させることは、まちづくりにとって重要な要素の一つであることから、平成27年度に地域公共交通網形成計画、平成28年度に地域公共交通再編実施計画を策定し、全市的なバス路線の再編を実施した。

また、令和3年度には地域公共交通計画を策定したところであり、本計画に基づき利用者の利便性向上のための運賃制度の導入や各施策の実施など、バス事業者の収支改善に取り組んでいる。

しかしながら、路線バスの利便性を向上させることは、財政的負担を伴うことにつながり、バス事業者や市の財政支援で賄うことが極めて困難な状況にあることから、国の地域公共交通確保維持改善事業を活用し、路線バスを基幹とする持続可能な交通ネットワークの構築と充実を図るものである。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

令和5年度申請時における目標を以下のとおり設定した。

### ① 収支率(桜木線・みどり台線)

	令和5年度
	R4.10~R5.9
目標値	45.0%
実績値	41.1%

### ② 利用人数(市乗降調査) ※1日あたりの利用者数

	桜木線		みどり台線	
	目標	実績	目標	実績
冬	402人	414人	285人	305人
夏	288人	247人	180人	203人

### ① 収支率(東千歳デマンドバス)

	令和5年度
	R4.10~R5.9
目標値	12.6%
実績値	20.6%

### ② 利用人数 ※1年間の利用者数

東千歳デマンドバス	
目標	499人
実績	494人

## 地域公共交通の現況

- ・JR千歳線(千歳駅、南千歳駅、新千歳空港駅、長都駅)
- ・路線バス(北海道中央バス、千歳相互観光バス、道南バス、あつまバス)  
17路線(内、地域間幹線系統2路線)
- ・東千歳デマンドバス(市内1路線)
- ・長都、中長都、釜加地区デマンドバス(市内1路線)
- ・スクールバス(6路線)

## 令和5年度事業概要

【みどり台線】運行事業者:北海道中央バス株式会社

運行区間:千歳駅～みどり台北2丁目

運賃:千歳駅～みどり台北2丁目間 100円～280円

【桜木線】運行事業者:北海道中央バス株式会社

運行区間:以下のとおり

運賃:100円～280円(循環路線)

- ・桜木線① 千歳駅～千歳駅(循環)
- ・桜木線② 千歳駅～千歳駅(循環) ※ショートカット型
- ・桜木線③ 千歳駅～桜木5丁目

【東千歳デマンドバス】

運行区域:千歳市東千歳地区(協和、幌加、新川、東丘、中央、泉郷、根志越)

運賃:協和・幌加・新川・東丘:大人600円 小人300円 学生300円

中央・泉郷・根志越:大人400円 小人200円 学生200円

## 協議会開催状況

令和5年6月9日 第1回協議会を開催

- ・協議事項:、令和4年度事業報告及び決算報告、令和5年度事業計画及び公共交通利用促進の取組など

令和5年9月11日 第2回協議会を開催

- ・協議事項:路線バスにおけるダイヤの見直し

令和5年10月 第3回協議会(書面)を開催

- ・協議事項:専門委員会の設置について

令和5年11月10日 第4回協議会(書面)を開催

- ・協議事項:路線バスにおけるダイヤの見直し及び自動運転及びオンデマンドバスの実用に向けた検討

令和5年11月 第5回協議会(書面)を開催

- ・協議事項:交通DX専門委員会の設置について

# 令和5年度事業の実施状況

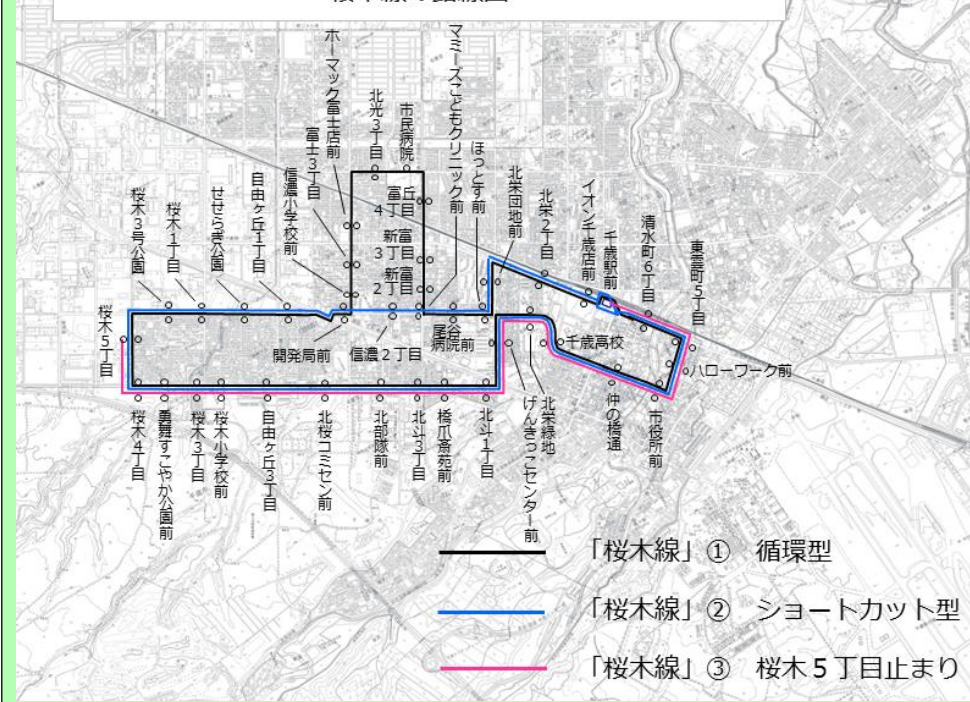
## 1) プロセス、創意工夫

- ・市内各バス事業者のGTFSデータの整備が完了(GTFS-JP4社、GTFS-RT3社)し、民間の経路検索サービスへ運行情報が反映された。
- ・東千歳市区で運行していた、東千歳乗合タクシーを廃止し、令和4年10月より、運行形態がオンデマンド型である東千歳デマンドバスの運行を開始し、運行経費の削減や利用実態に合わせた運行形態に変更したことで利便性の向上に努めた。

[R4.10~R5.9の状況]

## 2) 運行系統 (桜木線・みどり台線)

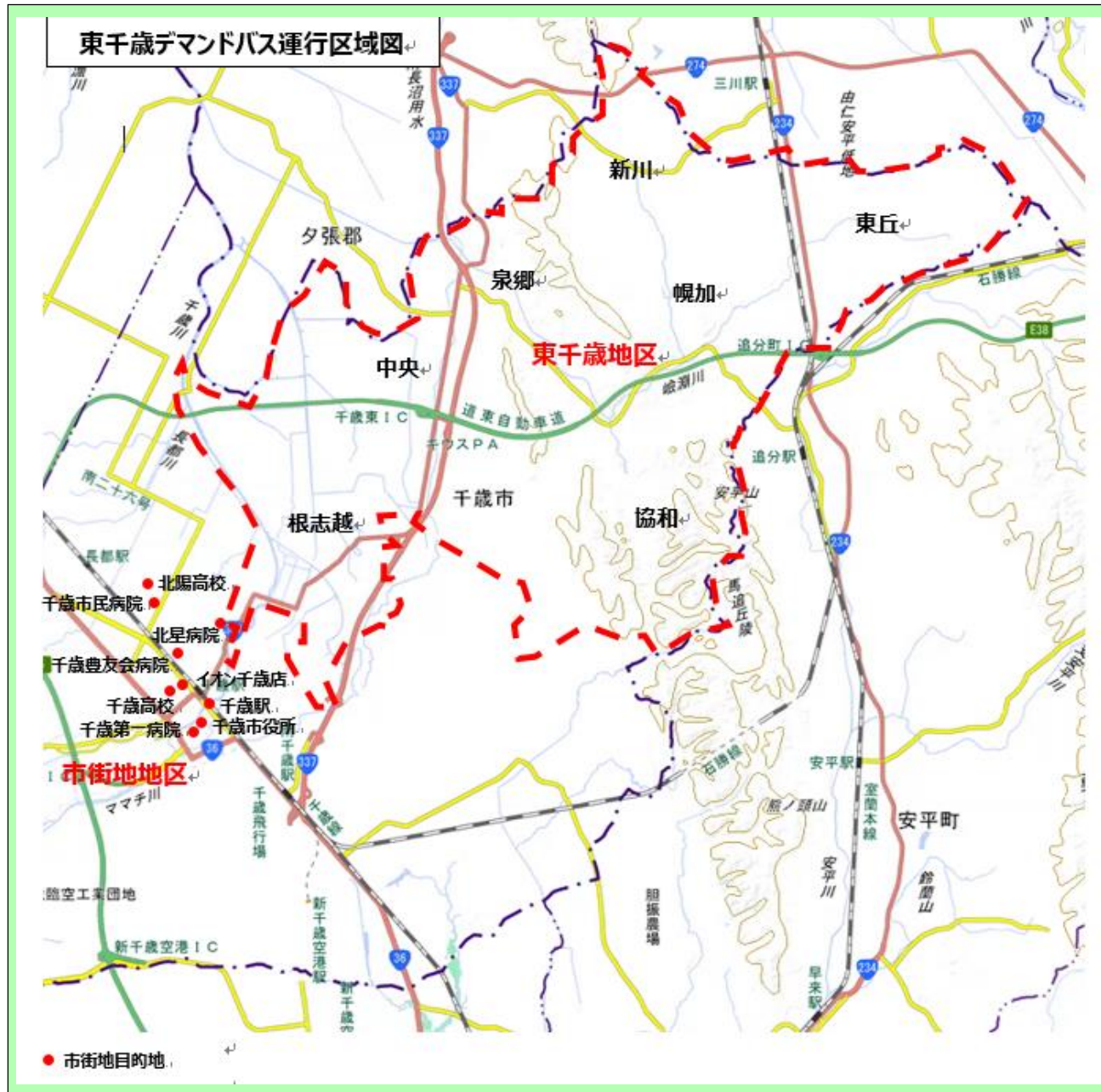
桜木線の路線図



みどり台線の路線図



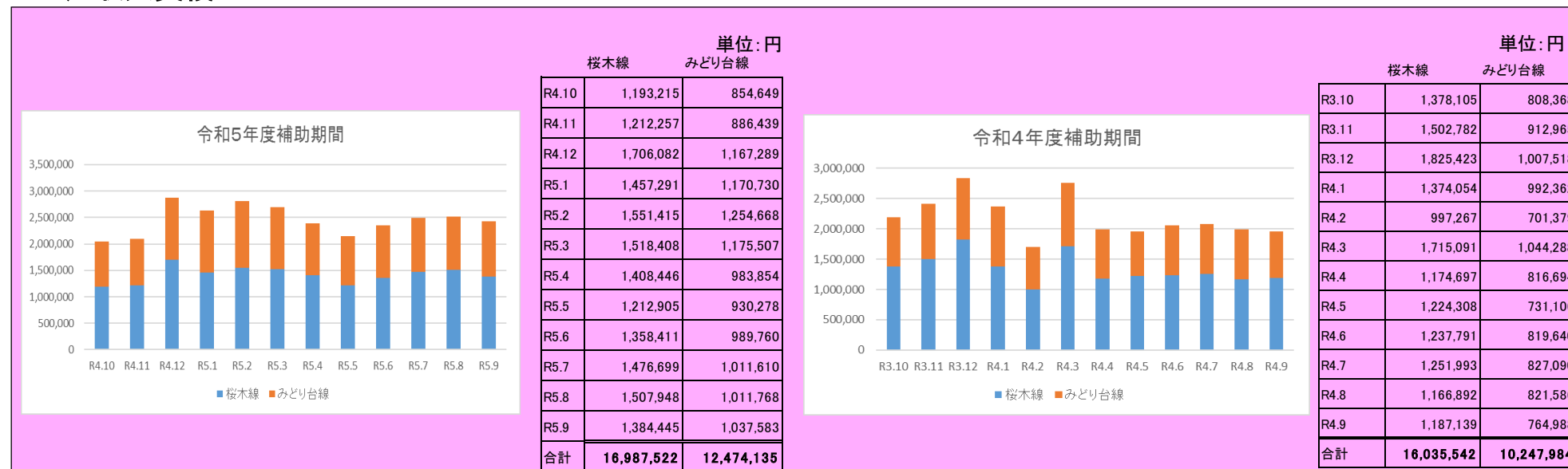
## 2) 運行系統 (東千歳デマンドバス)



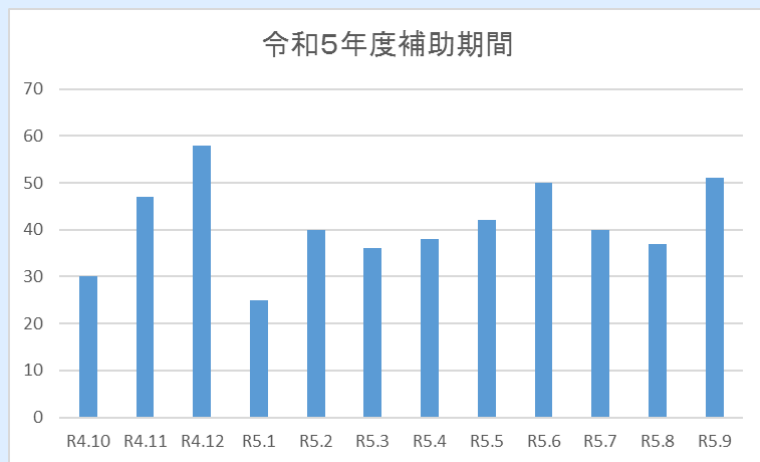
### 3) 利用実績(桜木線・みどり台線)



### 4) 収入実績



### 3) 利用実績 (東千歳デマンドバス)

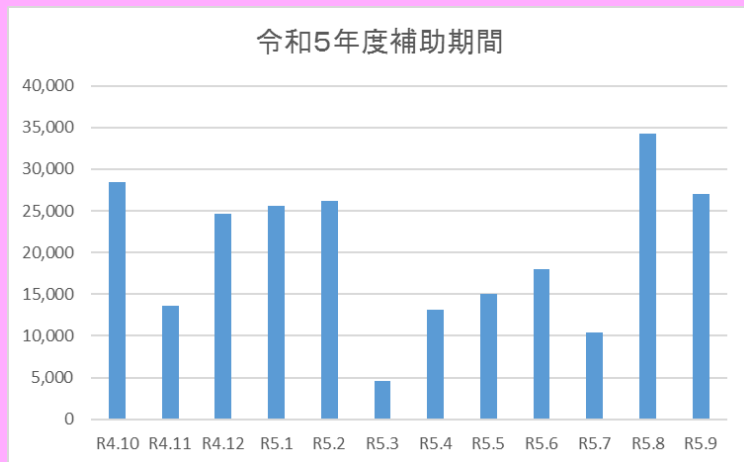


単位: 人  
東千歳

R4.10	30
R4.11	47
R4.12	58
R5.1	25
R5.2	40
R5.3	36
R5.4	38
R5.5	42
R5.6	50
R5.7	40
R5.8	37
R5.9	51
合計	494

現在の運行体系は、令和5年度からであるため、令和4年度については、実績がないことから、令和5年度実績のみ記載。

### 4) 収入実績



単位: 円  
東千歳

R4.10	28,500
R4.11	13,600
R4.12	24,600
R5.1	25,600
R5.2	26,200
R5.3	4,600
R5.4	13,100
R5.5	15,000
R5.6	18,000
R5.7	10,400
R5.8	34,300
R5.9	27,000
合計	240,900

現在の運行体系は、令和5年度からであるため、令和4年度については、実績がないことから、令和5年度実績のみ記載。



## 5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

## 6) 目標・効果達成状況

### 1. 収支率について

#### 【桜木線・みどり台線】

目標: 45.0% 実績: 41.1%

#### 【東千歳デマンドバス】

目標: 12.6% 実績: 20.6%

### 2. 利用人数について（市調査）※1日あたりの利用者数

#### (1) 桜木線（市調査）※1日あたりの利用者数

目標: 冬402人、夏288人

実績: 冬414人(R04.12月)、夏247人(R05.4月)

#### (2) みどり台線（市調査）※1日あたりの利用者数

目標: 冬285人、夏180人

実績: 冬305人(R04.12月)、夏203人(R05.4月)

利用人数について、冬季は目標を達成し、夏季は目標達成には至っていないが、増加傾向にある。

利用者の増加を受け、収入については、増加しているが、依然として、収支率目標を下回っている。

#### (3) 東千歳デマンドバス※1年間の利用者数

目標: 499人/年

実績: 494人/年

収支率は、目標を達成し、利用人数についても概ね目標を達成している。

## 7) 事業の今後の改善点

### 【桜木線・みどり台線】

本システムについては、収支率の改善が今後の課題であり、各便の利用人数などを把握し、ダイヤの見直し及び運賃の引き上げを検討する必要があるが、利用人数は増加傾向にあることから、慎重に検討を進める。

引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、さらなる利便性の向上に取り組むとともに利用促進につながるような情報発信に努めていく。

### 【東千歳デマンドバス】

本システムについては、デマンド型の運行形態をとっており、交通空白地における運行を行っており、収支率については、必然的に低くなっていくこともあり、市から補助金を出し、運行を支えている。

運行を行っている地区の人口的に日常利用については、あまり多くはない系統であるが、地元住民にとっては欠かせない移動手段であることから、継続的に運行することができるよう、周知等を行い利用促進につながるよう努めていく。

## 8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄